

令和元年度「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文小学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「土砂災害から命を守る」

滋賀県 彦根市立高宮小学校 5年 ^{にしむら}西村 ^{りお}璃音

夏になり、ゲリラごう雨や台風で、川のはんらんや土砂災害のニュースを見る事が増えました。私も小さい頃に、台風で川がはんらんする寸前の大雨を経験したことがあります。その時私達の地域には、大雨特別けい報がだされました。夜中でした。雨のザーザーすごい音と消防の車が何かを伝えながら家の近くをまわっていました。でも雨の音ではっきりは聞こえず、不安な思いだったのを覚えています。なので、実際にひ害に合ったら、どんなに怖いだろうなと思います。

わたしたちの地域では、山がなく土砂災害のおこる心配はないけれど最近よくおこる土砂災害について知りたくなり調べました。

まずは、土砂災害がどのくらいおきているかを調べてみました。全国では、年間約千件をこえる土砂災害が毎年発生しています。だんだん増えていて毎年のように、土砂災害が発生する地域もあるそうです。

そして、土砂災害の種類もわかりました。種類は、土石流、がけくずれ、地すべりがあります。あとそれぞれの特ちょうと時速がちがいました。土石流は、けい流に溜まった土砂が長雨やごう雨などによって、一気に下流へおし流される現象をいいます。時速 20 km~40 kmと自動車なみの速度で流れ、はかい力がとても大きいので、家や田畑をおし流し大きなひ害をもたらします。か去に土石流が発生したけい流は、要注意です。がけくずれは、突発的に起こり、くずれ落ちるスピードが速いため、家の近くで起きると逃げおくれる人も多く、死者の割合が高い特ちょうがあります。地すべりは、比較的緩やかな斜面において、地中のすべりやすいその地ばんが地下水のえいきょうなどを受けて、ゆっくりと動き出す現象をいいます。それぞれの特ちょうを知り、注意することが大切だとわかりました。

次に、自分たちでできることについて調べました。まず、今いる場所の危険度を知っておくことが大切です。土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域は、危険な地域をしめしており、それはハザードマップをチェックしてみるとよくわかります。すると、ひなんのタイミングをはかることができるのでは、ないでしょうか。しかしニュースなどではにげおくれたりひなんをせず、ひ害にあっている人が多くいます。まさか自分の所が、ひ害にあうとは、思っていなかったり、大じょうぶだろうと言う気持ちがひなん行動につながらないのかなと考えました。それに、自分一人だけではひなんするのになかなか勇気がいるのが、実際のところだと思いました。にげおくれることなくひなんするためには、近所の人と声をかけ合ってひなんすれば、それを見たほかの人たちもひなんしてくるのではないかと思います。かん単には、いかなくても一人の行動で何かかわるかもしれないと思い、行動できればいいです。

今回土砂災害について調べたり考えたりして、災害をなくすことはむずかしいけれど、命を守ることにはできると思いました。家族と災害について話したり、ひなんに備えるため防災リュックをつくりました。一つのリュックに必要なものを入れるのは、たくさんあって大変でしたがこのあとも、土砂や水の災害が多くなるので、こういったそなえや、ちしきをふやしていきたいです。